

まちづくり会議・意見交換報告（令和5年6月6日）

（グループ②子育て・福祉・教育）

令和5年度第1回池田町まちづくり会議 5. 総合計画推進管理における意見交換

<出席者>

十勝池田町農業協同組合 青年部 八田 祐基
十勝池田町農業協同組合 女性部 神谷 一恵
池田地区連合会 山本 崇晴
池田消費者協会 村瀬 理恵子
池田町小中学校校長会 稲葉 珠樹
池田町町内会連合会 栗城 富美雄
池田町文化協会 堤 秀昭
池田町体育協会 内藤 彰彦
一般 我妻 敏郎

池田町：担当管理職（鈴木福祉課長、三宅保健子育て課長、高島教育課長、清水企画財政課長）
事務局（齋藤企画統計係主査、塚田企画統計係主任）

事務局の司会進行により意見交換開始。

<答申書附帯意見について>

【基本目標2の進捗状況】

■職員A) 継続事業として「子育て世代包括支援センター」や「赤ちゃんルームこあら」等の子育てに関する相談の場や集いの場を提供している。また、経済的支援として、出産祝い商品券や医療費無償化といった内容を継続して実施している。その他、病後児保育や一時預かり保育、子育て支援事業なども継続し、充実を図ってきている。

令和4年度以降は新たに、コロナの交付金などを活用して学童保育所・カトリック幼稚園にエアコンを整備した。その他、保育所、幼稚園に遠距離から通園している方の保護者に対する交通費助成も実施している。

令和5年度から不妊治療費助成を再開した。令和4年度から保険が適用されたことで町の助成は一反終了していたが、引き続き3割の負担が生じることや、特定不妊治療は保険対象外となる等の理由から、今年度から再開している。空白となった令和4年度の不妊治療についても、遡って対象としており、既にかんりの申請・相談が寄せられている状況である。

また、現在は検討段階であるが、旧利別小学校跡地への子育て支援施設等の整備を計画している。今年度は基本構想の策定を行う予定であり、基本的な内容としては、1つ目に「子どもの遊び場」として、屋内外両方に親子が集って遊べる場として整備することを検討している。2つ目は、発達支援センターの移転。今現在、保健センター内で運営しているが、専用の相談療育スペースが限られており狭隘であることや、町内に放課後等デイサービスなどの事業所が無く、町外の事業所を利用せざるを得ない状況を解決するために、本機能も旧利別小学校へ移転し、療育や福祉サービスの充実を図りたいと考えている。3つ目は、地域子育て支援拠点事業所として、現在、池田保育園内で運営している「子どもセンター」の事業についても、スペースが非常に狭隘の中で運営をしているため、同じく旧利別小学校への移転・整備を検討している。

これら3つの機能に加えて、支障のない範囲で追加要素の検討を行いたく、基本構想の策定に取り組むこととしている。

- 委員 A) 池田町のファミリーサポートセンターが現在休眠状態と聞いている。今後どのように考えているのか、どのように充実させていくのか伺いたい。
- 職員 A) ファミリーサポートセンターの事業は、ボランティアで子どもの面倒を見ていただける方に一定の講習を受けていただいて登録をしていただく「まかせて会員」と、子どもを預けたい「おねがい会員」の登録による希望をマッチングする事業となっている。令和元年度から開始し、何件かの利用があったが、その後、コロナ禍の影響により利用希望自体が来なくなった。また、「まかせて会員」の人数も少ない中、コロナ禍により積極的な広報活動も出来なかったことから、ご指摘のとおり実質休眠状態となっている。近頃はコロナ禍も緩和されてきたこともあり、令和5年度予算で「まかせて会員」の充実のため講習に係る予算を措置しており、会員の増員による制度の充実を図るべく、担当間で計画しているところである。

- 委員 B) 旧利小の利活用に関して、令和7年度まで相当な事業規模になっている。どのようなイメージで整備していくのか、分かる範囲で概要を教えてください。
- 職員 A) 先ほどご説明のとおり、子どもの遊び場、発達支援センター、子どもセンターを基本とし、追加で何ができるのかについて、基本構想の中で決めていくことになる。現段階で具体的には示せるものはない。
- 委員 B) 新たな建物を建てるという構想はないのか？
- 職員 A) 基本的には「利活用」という方向であるが、跡地・旧校舎をそのまま利用して整備運営するのが良いのか、それとも、改築、あるいは減築等を行い整備した方が良いのか等を含めて、基本構想の中で検討する。

- 委員 B) 運動場は十分な広さがあり、利別地区の中心地にあり、周辺には介護施設等もある。日常的に町民が集える憩いの場としての整備も視野に入れてみてはどうか。
- 職員 B) 追加の意見として参考にさせていただく。

- 委員 A) 池田地区の子どもたちの遊び場として、多世代交流施設「ふらっと」に隣接する役場の中庭に芝生を整備してはどうか。旧利小の利活用に係る予算が総額10億円とすごい規模の事業となっている。みんなが集える公園として規模を大きくしていくと、必要となる外構整備費用も膨大になる。子どもセンター等の様々な機能を移転することで効率化が図られるのは良いことだが、町民の理解が得られるのかは疑問である。
- 委員 C) 子どもが2人いるが、町外の大きな公園に遊びに行くことが多い。これが近くにいできれば、すごく良いと思う。保育園児等の小さい子どもが遊べるような遊具や公園も無い。旧利小に遊び場を整備するのであれば、小さい子ども向けの遊具等も整備していただければありがたい。子どもセンターは確かに狭いと思う。広くなるのはとても良いことと思う。
- 職員 B) 基本構想の中でどこまで整備できるかはわからないが、そのような施設があるとほかの町からも来ていただける可能性もあるかと思うので、追加の意見として参考にさせていただく。

【基本目標3の進捗状況】

(ふるさと教育の充実について)

- 職員 D) ふるさと教育の充実については、自分たちの住む地域の豊かな自然環境や伝統文化等の理解を深めていくことが重要であり、子どもたちから大人まで含め、ふるさとへの誇りや愛着を育み、豊かな感性を備えた人間としての成長に必要なことだと考えている。
具体的な実施例として、旧高島中学校を活用した郷土資料館で、子どもたちがふるさとの歴史や文化を知って、将来を考えるのに有効な、昔の農機具など様々な歴史あるものを有効的に活用している。また、子どもたちの休みの日に自然体験的な「わんぱく体験塾」のような取り組みとして、直近では、河川資料館での鯉釣り体験や、アウトドア

体験を実施している。

今年は7月下旬～8月上旬にかけて、コロナ禍で実施できなかった沖縄県読谷村への派遣事業を予定している。北海道池田町とは異なる歴史・文化・気候・風土の地域を訪れて、ふるさとの良さや戦争の悲惨さ等についても学ぶ、非常に貴重な体験学習としての位置付けで、昭和57年から始まっている事業である。財源には子ども夢基金を活用しながら、子どもたちへの体験事業に活用している。本年度は既に募集が終了しており、小学生33名、中学生38名の派遣を予定している。昔は相互交流だったが、現在は受け入れできていない。派遣については、沖縄県読谷村の民泊受け入れ団体の協力のもと、事業運営をしている。

(芸術文化活動への支援について)

- 職員 D) 芸術文化の振興については、人々に精神的な豊かさ、感動を与えることで、創造性や感性を育み、生涯に渡って、他者とのつながりを持ちながら、大人から子どもまで心豊かな生活を実現する上で、大変重要な取り組みとして位置付けている。

芸術文化活動のニーズが多様化している中、文化の継承や振興・発展を図るため、田園ホールを活用して、文化活動等の各種事業を実施している。

田園ホールの供用開始が平成元年であるため、各種設備更新に向け昨年度基本構想を策定し、本年度は実施設計の策定を進めている。今後も池田町民の財産として管理していく。

- 委員 D) 教育の部分に関しては、本当に手厚くやっていただいているが、できれば子供と大人と一緒にできることがあるといいなと思う。例えば、旧高島中学校の郷土資料館は学校の授業で行くことはあるが、町民の方はどれくらい行ったことがあるのか。その他の町内の施設に関しても、子どもと一緒に見て回れる機会があったらいいなと思う。子どもたちだけでなく、町民皆で共有できれば良い。図書館の見学も、それを通して町民にとって身近なものになる。池田町にはワイン城以外にも良い施設が沢山あると思う。3～4時間程度の町内巡りのイベントがあれば面白いと思う。

- 職員 D) 平成3年に教育委員会にいた当時、池田小中学校の教員が着任した際に、バスに乗って町内のカーリング場や体育館、図書館、屠畜場等の施設を回って、見学していたと思う。「まちづくり見学会」計画できるものであれば、バスの空き状況も見ながら、できるように考えていきたい。

- 委員 F) 是非、バスで見学に行きたいが、池田町内には身体障がい者用の施設が少ない。階段も上がれない。自動昇降機使うためには3人の手助けが必要。身体障がい者に対して優しい設備等があればありがたいと思う。

- 職員 E) 町内施設にはバリアフリーになっていない箇所が多い。すべての施設をバリアフリーにできるお金もないのが実態であるが、実際に不便に感じている方が、こうして話をさせていただくことは大きな意味を持つ。やはり、体験していない事を考えるのは限界があるので、体験者の話は非常に参考になる。

- 職員 D) 田園ホールのステージの横に階段昇降機があるが、使用する際にバッテリーがチャージされていなかったことがある。あるものはしっかり使うように指定管理者側へ指導しているところである。正面のドアについても非常に重いため、自動ドアにするよう設計に組み込む予定である。

(高校支援の推進について)

- 職員 B) このまちから高校生の姿が見えなくなる、声が聞こえなくなるということは、まちが衰退していく大きな要因となる。高校存続の意義は大きいものと考えている。利別に住んでいるが、玄関先が公園で、休みの日には子どもたちの声が聞こえてくる。町の活性化に非常に重要なことである。

高校支援の状況として、入学時に5万円、2年生就学時に5万円、下宿助成として、

今年度から月額1万円から3万円に増額した。現在高校生が入居している下宿は町内に2つあり、今年度は8人が入居している。下宿代はひと月6万円前半から7万円後半で保護者負担が大きい。その他、池田高校教育振興会の組織に対して年間400万円を補助し、生徒の資格取得受講料の助成や、学校案内パンフレットの作成、部活動の遠征費用等に充てている。

加えて、1月～3月までの約2ヵ月間、池田駅から池田高校までの通学バスの実証運行を実施した。基本的には町外から通う生徒の負担軽減を目的としている。また、帯広から来る電車の到着時刻が遅く、始業時刻までの時間が短いため、遅刻する生徒もいるという状況であり、試験的に実施した。結果として、複数回利用した生徒は、対象生徒の7割を超えている状況であり、その結果を踏まえ、12月以降は本運行とする方向で補正予算の提案を予定している。

新たな支援策の検討についても、池田高校の教諭と月一回のペースで打ち合わせをしている。学校そのものの魅力向上という視点で、現在、高校が力を入れて取り組んでいる探求科目の活動に対し、支援策の検討を進めている。今の子どもたちはどこでスイッチが入るか分からないため、きっかけを与えることで進学・就職へ繋がる。その機会をなるべく多く与えたい。

今年度、新1年生は33人、去年は39人と、2年連続で40人以下となっており、対策が急務である。

- 委員 A) 池田中学校の卒業生の割合は？
- 職員 D) 令和4年度3月に卒業した池田中学校3年生については、39人中18人が池高へ進学し、それ以外が帯広・幕別・本州（1人）となっている。
- 職員 B) 近隣町からの入学も少ない状況。高校の魅力化に向けた支援が必要である。
- 委員 E) 池田高校への補助額が年々増えている。お金を出せば生徒が集まるわけではない。遠軽町や足寄町の例を見ても、あれだけ投資しても定員割れしている。学校に魅力が無いと、親も帯広の学校を進めるようになる。学校の魅力づくりが第一である。
- 職員 B) 今年、標津町から池田高校に赴任した教諭も同じことを言っていた。生徒が高校を選ぶ基準は別の視点。生徒自身が行きたいと思える高校づくりを進めていかなければいけない。
- 委員 E) 私立高校の授業料の変化も大きく影響している。
- 職員 B) 学校の魅力に繋がる、生徒が恩恵を受けるような授業には支援していきたい。
- 委員 B) ペンティクトンの姉妹校相互交流について派遣・受入は池田高校生であれば町民じゃなくても良いのか？
- 職員 B) 派遣については、池田高校生であればいけるが、受入に関しては基本的に池田町内の家庭が基本である。